

国語科

- 【1学年】【話すこと・聞くこと】
なにに みえるかな
～はなしをつないで たのしもう～
- 【1学年】【読むこと】
いろいろなふね
～のりものずかんをつくろう～
- 【2学年】【話すこと・聞くこと】
たからものをしょうかいしよう
～友だちのことをもっと知ろう～

国語科 学習指導案

単元名 なにに みえるかな～はなしをつないで たのしもう～

日 時 令和2年10月28日（水曜日） 第3校時

指導者 大歳 美恵子

場 所 1年1組教室

学 級 第1学年1組 男子19名 女子11人 計30名

1 本単元の構想

【単元の目標】

- 身近なことを表す語句の量を増やし、話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（知識・技能）
- 「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思考・判断・表現）
- これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、互いの話に関心を持って話をつなごうとしながら、言葉がもつよさを感じるとともに、進んで思いや考えを伝え合おうとする。（主体的に学びに向かう態度）

【本単元に関する学習指導要領の「思考力・判断力・表現力等」に関わる内容】

A (1)
才

互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

【単元観】

本単元は、「話すこと・聞くこと」の「話し合う」の学習の系統に位置付けられる最初の単元である。本単元の学習にあたっては、これまでの学習を想起させ、つないで活用させるようにしたい。

なお、本単元の学習は、11月に学習する「すきなきょうかはなあに」の、話すことを整理する際の対話や、発表会で話したり聞いたりする際にも活用できる。また、以降のさまざまな学習活動における対話や感想交流などを行う際にも、本単元の学習事項を想起させ、日常的に生かすよう指導したい。

【児童観】

本学級の児童は、これまで話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞くこと、経験したことを簡単にまとめてみんなの前で話すこと、友だちの話を聞いて感想を伝えたり質問したりすることを学習した。その際、伝えたい人に届けるための声の大きさについても学習した。しかし、児童の会話や発表の様子などから、自分の言いたいことだけを言って、相手の話の内容に関心がもてなかったり、理解ができなかったりすると手悪さなどをして、最後まで聞くことができていない児童も見られる。

【指導観】

指導にあたっては、まず、生活科と関連させ、実際に自分で落ち葉や木の実を使って絵を作らせ、題材とする。同じ写真を見ても、そこから想像するものが同じとは限らない。作品をもとに、作った人の思いや作品の良さなどを交流させ、様々な見方があることに気付かせることで、いろいろな人の意見を聞くことの良さや楽しさを体験させる。その際、電子黒板に作品を提示しながら担任と児童で相手の発言を受けて話をつなぐ様子を全体でやった後、実際にペアでやってみるという活動の仕方でも理解を図りながら、意欲を高めていきたい。

次に、「相手の発言を受けて話をつなぐ」力を付けていくために、話し合いは3人程度のグループで行う。1人の児童が考えたことについて、他の児童が共感を示したり、次の質問をしたりして、やりとりをつなげていく。相手の話に相づちを打ったり質問をしたりして、共感的に話し合うことは、心地よく学習を進めるうえで重要である。また、実生活の中でも、相手の話を共感的に聞く際の言葉やしぐさなどはよい人間関係の構築にも欠かせないものである。こうしたコミュニケーションの基本的な態度形成にも留意したい。

また、話し合い活動で、話の内容が理解できず、話題に沿って話すことが難しい児童のために、前時にどんな質問をしたり、感想を言ったりしたらよいのかについて考える時間をとる。その時間に考えたことを表などにまとめて掲示しておくことで、活動の一助としたい。必要に応じて、手元にカードを持たせられるように準備しておく。また、話し合いがスムーズに進められるように、話し合いの仕方の型を示しておく。最後まで話を聞くことができにくい児童に対しては、毎時間授業の終わりに自分だけの振り返りでなく、相手が喜んでくれたかについても振り返りができるようにすることで、相手意識が続くようにしていきたい。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
①身近なことを表す語句の量を増やし、話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。(1)	①「話すこと・聞くこと」において、相手の話を関心をもって聞き、友達の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)	①進んで相手の話に相づちを打ったり質問をしたりしながら話をつなごうとし、グループで話し合おうとしている。

3 指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準（評価方法）		
		知・技	思・判・表	態度
1	写真をもとに、やりとりをしながらゴールの姿を見せ、学習の見通しを持つ。			
2	自分や同じグループの友だちの写真を見て想像を広げ、話し合いで話すことを考える。			
3	教師とやりとりしたり、友達と教師のやりとりを聞いたりして、話を楽しくつなぐために大切なことを考える。		・思①② (行動観察、 発言、ワー クシート)	・態① (行動観察、 発言、ワー クシート)
4 ・ 5	話し合ったことをもとに、写真を見て考えたことについて少人数で話し合う。	○知① (行動観察)	○思① (行動観察、 発言、ワー クシート)	
6	単元全体の学習を振り返る。			○態① (行動観察、 発言、ワー クシート)

4 使用教材

《はなしあいのしかた》

①②：よろしくおねがいします。

①：わたし(ぼく)は、これが○○に見えます。

②：○○に見えんですね。

※しもん

※おもったこと

①：くん(さん)は、なにに見えますか？

※しもん

※おもったこと

②：おしえてくれて、ありがとう。

①：はなしてくれて、ありがとう。

☆うれしかったこと

☆きづかなかったこと など かんそうをいう。

①②：ありがとうございました。

【図1】話し合いの進め方の表

なに見えかな だい()かい目

●はなしを たのしく つなぐ ために、見つけたことを かきましよう。

☆はなしを たのしく つなぐ ことば

☆はなしを たのしく つなぐ ために すること

●ふりかえろう

① たのしく はなしをつなぐことができた(はい・もうすこし・いいえ)

② はなしをつなぐことが思っていたよりできた(はい・もうすこし・いいえ)

③ まえとくらべて、じぶんが よくなると おもうところを かきましよう。

【図2】振り返りワークシート

5 本時の目標

教師とのやり取りや2人1組の対話を通して、話を楽しくつなぐ言葉や態度について考えることができる。(思考・判断・表現①)

6 本時の展開

学習過程	主な学習活動と児童の反応(・) 主な発問○	指導(・)支援(○)	◎評価規準 (評価方法)
導入	1 本時のめあてを確認する。 ○前の時間に、お話を楽しくつなげて話すために、どんなことを考えましたか。 ・いいと思ったところを言う。 ・どうしてその動物にしたのかを聞く。 ・目を見ながら聞く。	・前時を想起させ、本時のめあてをもたせる。	
	はなしあいめい人になるために、はなしをたのしくつなぐことばやたいどを見つけよう。		
自分の考えをもつ	2 教師とやりとりをしながら、話を楽しくつなぐやり方を理解する。 ○楽しく話し合うためのコツを確認しておきたいので、まずは、先生とみんなでやってみましょう。 ○見つけたことを発表してください。 ・「どこが一番気に入っていますか。」です。 わけは、質問するともっとたくさん話せると思ったからです。	○話を楽しくつなぐ言葉を黒板に掲示しておくことで、何を言ったらよいか迷っている児童への手助けとする。 ・言葉だけでなく、表情や姿勢、仕草などにも目を向けさせるようにする。 ・タブレットを活用し、同じ作品を見ながら、話し合いをしていくことで、次の活動のやり方を理解させるとともに、意欲を持たせる。	◎思① (行動観察・発言・ワークシート) ・態① (行動観察, 発言, ワークシート)
	3 話を楽しくつなぐ言葉を意識して、2人1組で話し合う。 ○では、今からペアになって話をつなげてみましょう。 ○やってみてどうでしたか。楽しく話が続きま	・机を向かい合わせにさせ、はじめに自分の考えを話す人の作品を中央においてからスタートする。 ○話型をきめておき、黒板の横に掲示する。 ・困ったことも出させること	◎思② (行動観察・発言・ワークシート) ・態① (行動観察, 発言, ワークシート)

深める	したか。新しく見つけたことや困ったことなどを発表しましょう。 • ぼくは〇〇君が作ったものとは違うものに見えてしまいました。こういうときはどうしたらいいですか。 ○では、交代します。今出たつなぐことばも使いながら、話を続けてみましょう。 ○新しく見つけたことや困ったことなどを発表しましょう。 ○楽しく話し合うためのコツを確かめたいので、誰か先生とやってみたいという人いませんか。（時間があれば）	で、次からはどうしたらいいか話し合うことで、見通しを持たせ、意欲につなげる。 ○話すことがわからないでいる児童には、相手から聞き取ったことを復唱したり、話型を使って具体的な部分を確認する質問をしたりしてみるように促す。	
まとめ	4 学習をまとめる。	• 児童の言葉でまとめるようにする。	
	はなしあいめい人になるには、あいてのことをかんがえてしつもんをしたり、いいところを見つけてはなしたりするとよい。きくたいども、とてもたいせつ。		
振り返り	5 本時の振り返りをする。 ○今日の授業の振り返りをワークシートにしましょう。	• 次時は3人のグループで話し合うことを伝えておき、意欲につなげる。	◎思① (行動観察・発言・ワークシート) • 態① (行動観察、発言、ワークシート)

8 めざす児童の具体的な姿

相手の話を関心をもって聞き、友達の意見を受けて話をつなぎながら、話を楽しくつなぐために大切なことについて考えることができる。

【概ね満足する状況】

- 自分の考えを話すだけでなく、相手との会話が楽しく続くように考えながら話をつなぐことができる。

【十分満足する状況】

- 進んで相手の話に相づちを打ったり質問をしたりしながら、共感的に話をつなぐことができる。

9 板書計画

⑤ はなしをあいいい人にならなは あいてのこをかんがえて、しつもんをしたら、いいところ を見つけてはなしたりするとよい。たいどもたいせつ。	⑥ はなしをだのしくつなぐことはやたいとを見つけよう はなしをだのしくつなぐことは (まえのじかん) ・かわいいね。・いいね。・おもしろそうだね。 ・なるほど。 ・〇〇はなにをしていますか。 (きょう) ・おしえてくれてありがとう。 ・ほんとうだ。・いっしょだね。・すこいね。 はなしをだのしくつなぐためにすること ・うなずく。・うなずくおできく。 ☆目を見てきく。
--	--

なにこ 見えるかな

がくしゅつけいかく

めざせ！はなしあいいい人

①はなすことをかんがえる。

②ともだちとはなす。

③ことばの力を見つける。

④まとめる。

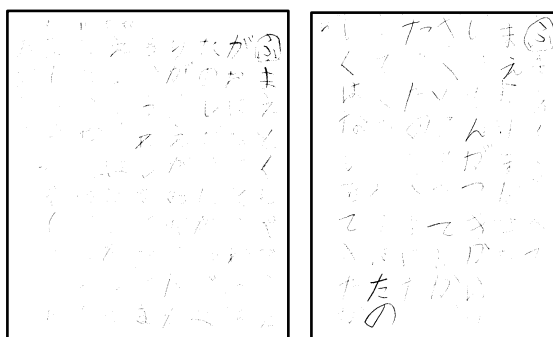
10 授業を振り返って

①本時の振り返り

- 本時では、作品を見ながらどのように話をつなげていったらよいかということを理解させる目的で電子黒板を使用した。どのペアも話をつなげていこうとする姿が見られるなど、効果的な活用であった。
- 中間評価の際、やりとりをしている様子を全体に見せ、よりよい話のつなぎ方を共有したり、良かったところなどを発表させたりしたことは意欲につながり、その後の話し合いに自信をもって取り組む児童の姿がたくさん見られた。
- 本時において、目標を達成できた児童は87%いた。このことから、概ね授業のねらいは達成できたと考える。
- 話を楽しくつなぐために大切なことについてまとめる際、「ことば」と「たいど」に分けて聞いたため、児童の発言が止まってしまった。児童に自由に発表させ、担任が「ことば」と「たいど」に分けて板書すればよかった。
- 中間評価の際、タブレットで撮った映像をすぐに見せることができるように、ICTの操作に慣れていきたいと感じた。



【図1】話をつないでいる児童の様子



【図2】A 評価児童のノートの記述

②単元を振り返って

- メンバーを変えて3人で話をつなぐ活動に入る前（第3時）に、上手に話し合いをしていたペアの映像を電子黒板で見せた。ゴールの姿をより具体的にイメージさせることで、前の時間に上手く話せなかった児童も、笑顔で話をつなぐことができるようになった。
- 単元末に行った振り返りのアンケートでは、楽しく話をつなぐことができるようになったと感じた児童は、99%であった。児童の振り返りでも、「前と比べて上手になった。」「はるかしくなくなった。」という記述が多く見られた。特に、「友だちと仲よくなった。もっと話したい。」と前向きな記述が多く見られ、学級経営の基盤を作ることができる単元であると感じた。
- 数名の児童については、今後も個別に思いを聞いたり、繰り返し練習したりする時間を取るなどの支援が必要である。本単元の学習内容は回数を重ねるごとに「できた」と感じる児童が増えていった。時間の確保や内容に応じた支援を取り入れることで、指導の改善を図っていきたい。

	知・技	思・判・表	態
A 評価	80%	23%	37%
B 評価	20%	77%	63%
C 評価	0%	0%	0%

【表1】単元末における児童の評価の割合

国語科 学習指導案

単元名 いろいろなふね～のりものずかんをつくろう～

日 時 令和2年11月17日（火曜日） 第2校時

指導者 中田 美咲

場 所 1年2組教室

学 級 第1学年2組 男子19名 女子9名 計28名

1 本単元の構想

【単元の目標】

- 共通、相違、事柄の順序など、情報と情報との関係について理解することができる。（知識・技能）
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思考・判断・表現）
- 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように、書き表し方を工夫している。（思考・判断・表現）
- 楽しんで読書し、好きな乗り物について調べるとともに、積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、読んで分かったことをまとめて伝え合おうとする。（主体的に学びに向かう態度）

【本単元に関する学習指導要領の内容】

C（1）
ウ

文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

【単元観】

単元は、4種類の船の「役目」、「つくり」、「できること」について説明した文章を読むことを通して、書かれている事柄の順序を捉え、まとまりごとの構成の共通点に気付くことで、どこに何が書いてあるのか見つける力を高めることをねらいとしている。文章全体は、話題提示、4つの例示、まとめというように文章構成がとらえやすくなっている。4つの例示は、同じ文型で繰り返し説明されており、順序に即しながら内容を正確に捉えるのに適している。また、教材から学んだ説明の文型を生かし、「のりものずかん」を作成することで、実生活において知りたいことを調べるための基礎力を身に付けることができる単元である。

【児童観】

本学級の児童は、1年上「どうやってみをまもるのかな」という説明文を学習し、「問い」と「答え」がどこに書かれているのかを見つけたり、写真と教材の文章を照らし合わせたりしながら内容を読み取る学習をした。しかし、目的に応じて、文を選び出すことが難しい児童が5名程度いた。6月のアンケートでは、「読書が好きだ」と答えた児童は、70%であった。しかし、読むことに課題のある児童については、読むことへの抵抗から、内容を読み取って読書を楽しむには至っていない。読んだ文章の内容を想像したり、意味のまとまりごとに区切りながら読んだりすることに課題がある。

【指導観】

指導にあたっては、先生に自分の好きな乗り物を教えるために、「のりものずかん」を作ることをゴールとして学習を進めていく。単元前半では、乗り物について分かりやすく説明するために、文型や構成に着目させて文章を読み取っていく。例示同士を比較させ、共通点や相違点を考えさせることで、乗り物の「役目」、「つくり」、「できること」という3つの観点を読み取らせる。ICTの活用については、船の動画を見てイメージをつかみ、船のつくりについて理解を深めさせたい。意味のまとまりごとに区切りながら読むことが難しい児童には、キーワードとなる文を短冊で掲示し、見つけやすくなるような支援をする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2) ア)	①文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C (1) ウ) ②語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように、書き表し方を工夫している。 (B (1) ウ)	①積極的に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、読んで分かったことを分かりやすく伝え合おうとしている。 ②楽しんで読書をし、進んで好きな乗り物を調べようとしている。

4 指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準（評価方法） ・指導に生かす評価 ○記録に残す評価		
		知・技	思・判・表	態度
1	乗り物のことを調べてカードに書くという学習課題を確かめ、学習の見通しを持つ。			・態① (行動観察、ワークシート分析)
2	文章を読み、例示ごとの共通点を比べる。	・知① (行動観察、ワークシート分析)		
3	客船の内容を読み取り、特徴をまとめる。		・思① (行動観察、カード分析)	・態① (行動観察、カード分析)
4	フェリーボートの内容を読み取り、特徴をまとめる。		・思①② (行動観察、カード分析)	
5	漁船の内容を読み取り、特徴をまとめる。		○思①② (行動観察、カード分析)	
6	消防艇の内容を読み取り、特徴をまとめる。		○思①② (行動観察、カード分析)	
7	いろいろなふねの特徴をまとめ、教材文の構成を振り返る。	・知① (カード分析)	○思①② (行動観察、カード分析)	

8 ・ 9	調べたい乗り物について書かれている本を読み、メモを書く。		○思① (行動観察, カード分析)	○態①② (行動観察, カード分析)
10	メモをもとに、調べた乗り物についてカードにまとめる。	・知① (カード分析)	○思② (行動観察, カード分析)	
11 ・ 12	作ったカードを交流して、感想を伝え合う。			○態① (行動観察, カード分析)
13	学習内容の定着を確認する。 (評価テスト)	○知① (ペーパーテスト)		

5 使用教材

【図1】ワークシート(第5次)

【図2】のりもののカード(第10次)

6 本時の目標

写真や動画，文章を手がかりに，「やく目」「つくり」「できること」のつながりを考えることで，書いてあることを正しく読み取ることができる。（思考・判断・表現①）

7 本時の展開

学習過程	主な学習活動と児童の反応(・) 主な発問○	指導(・)支援(○)	◎評価規準 (評価方法)
導入	1 前時の学習を想起する。 2 ⑧～⑩段落を音読し，学習範囲を知る。 3 本時のめあてを確認する。 ぎょさんのすごいところをよみとろう。	・フェリーボートの「やく目」，「つくり」，「できること」について想起させ，本時のぎょさんの学習の意欲を高め	
考えをもつ	4 漁船の「やく目」を確認する。 ・さかなをとるためのふねです。 5 漁船の動画や写真を見て，すごいところを見つけ，それがあるとできることをペアで話し合い，発表する。 ○漁船の「すごいところ」はどこでしょう。なぜすごいのか，「そう思うわけ」も言いましょう。 ・網…たくさん魚を捕まえる。 ・魚を見つける機械…魚がいる場所を見つける。 ・クレーン…網を引き上げる。	・「～のため」という言葉に注目させる。 ・「すごいところ」と「そう思うわけ」を伝えるようにさせる。 ・必要に応じて，本当にすごいところなのか，揺さぶり，考えを深めさせる。	ICT テレビの画面で動画を見せ，イメージを持たせる。
深める	6 「つくり」と「できること」を確認し，見つけたすごいところと，本文とのつながりを考える。	・自分たちが動画や写真から考えた「すごいところ」と，つながりがあることを意識させ，それが漁船の「やく目」につながっていることを確認する。 ○「網や魚のむれを見つける機械があるから…？」と声をかけ，「できること」を見つける。	◎思① (行動観察・ワークシート分析)

まとめ	7 漁船のすごいところを記入する。 ・漁船のすごいところは、網でたくさん魚をとったり、魚のむれを見つける機械で、魚を見つけることができるということです。	・文章だけでなく、動画や写真から気付いたことも書いてもよいことを伝える。	◎思② (行動観察・ワークシート分析)
振り返り	8 本時の振り返りをする。 ・漁船には、魚をとるためのいろいろな工夫があることがわかった。 ・大きな網で魚をとっていてすごいと思った。		

8 めざす児童の具体的な姿

文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、内容のまとまりが分かるように、書き表し方を工夫している。(思①・②)

【概ね満足する状況】

- ・漁船のすごいところを、教材文や写真から読み取り、ワークシートにまとめている。

【十分満足する状況】

- ・漁船のすごいところを、教材文や写真、動画を見てからの話し合いなどから読み取り、ワークシートにまとめている。

9 板書計画

④

ぎよさんのすごいところは、あみでたくさんさかなをとったり、きかいで、さかなを見つけることができることです。

見つけたさかなをあみでとります。

できること

あみ

さかなのむれを見つけるきかい

つくり

やく目

さかなをとるためのふねです。

漁船の写真

あみ…たくさんさかなをとる。

さかなを見つけるきかい

…さかながいるばしよを見つける。

クレーン…あみをひきあげる。

⑤

「ぎよさんのすごいところをよみてみよう。」

いろいろなふね

10 授業を振り返って

①本時の振り返り

- 本時では、漁船のすごいところを見つけるという目的で電子黒板を活用した。テレビで漁船の動画を見せることで、漁船についてのイメージを持たせることができたとともに、文章からだけでは読み取ることができない情報も、発見させることができた。
- 「やく目」「つくり」「できること」をクラス全体で線を引かせながら確認したことで、文章の中から重要な語を見つけ出させることができた。
- 本時において、目標を達成できた児童は96%だった。このことから、概ね授業のねらいは達成できたと考える。
- 文章の読み取りの前に動画を見せたため、文章から漁船の特徴を読み取る活動が十分でなかった。文章で漁船の特徴を確認した後、動画を見せることで、漁船の特徴の読み取りを深めさせるべきだった。



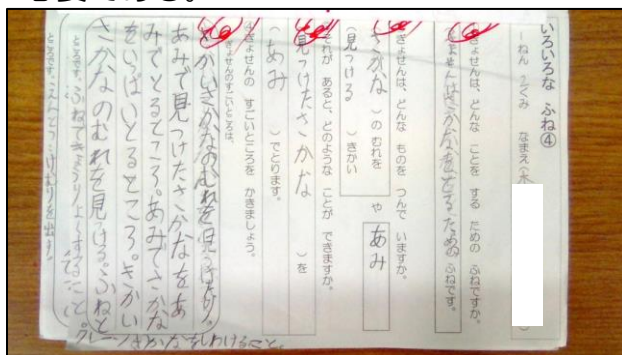
【図1】意見交換をする児童の様子



【図2】動画を見る児童の様子

②単元を振り返って

- 毎時間、文章の読み取りに同じ形式のワークシートを使用させたことで、内容の大体を丁寧に読み取らせることができた。ワークシートと文章を照らし合わせながら、どこを読むと、重要な語や文が書いてあるかを自分の力で考えて選び出している姿が見られた。
- 単元末における評価では、ペーパーテストの際、重要な語や文を文章から選り出すことができた児童は、32%であった。児童の振り返りでも、「図鑑の文章から言葉を抜き出すことが難しかった。」という記述が見られた。
- 21%の児童については、今後もキーワードを丸で囲み、ポイントを絞り込ませたり、文章に関係のある絵を用意して視覚的に考えさせたりするなどの支援が必要である。



【図3】A評価児童のワークシート

	知・技	思・判・表	態
A 評価	32%	14%	28%
B 評価	47%	72%	58%
C 評価	21%	14%	14%

【表1】単元末における児童の評価の割合

国語科 学習指導案

単元名 たからものをしょうかいしよう～友だちのことをもっと知ろう～

日 時 令和2年11月19日（木曜日） 第3校時

指導者 酒井 優広

場 所 2年3組教室

学 級 第2学年3組 男子16名 女子9名 計25名

1 本単元の構想

【単元の目標】

- 姿勢や口形，発声や発音に注意して話すことができる。（知識・技能）
- 相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えることができる。（思考・判断・表現）
- 「話すこと・聞くこと」において，伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思考・判断・表現）
- これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし，進んで話す事柄の順序を考えて自分の宝物を紹介しようとする。（主体的に学びに向かう態度）

【本単元に関する学習指導要領の「思考力・判断力・表現力等」に関わる内容】

A (1)
ウ

伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。

【単元観】

本単元は，相手意識や目的意識をもたせた上で，自分の宝物について紹介したいことを，「始め」「中」「終わり」の組み立てで話す力を身に付けさせることをねらいとしている。また，話す際には，姿勢や発声，発音などの話し方の重要性も学ばせることができる。さらに，聞き手のことを念頭に置き，大事なところは大きな声でゆっくり話すなど，紹介したいことが聞き手に伝わるように話し方を考えさせること，これらの話す力は汎用的な力であり，どの学習にも生かすことができる単元である。

【児童観】

本学級の児童は，これまで，体験した出来事について丁寧な言葉を使って話したり，順序に気を付けて説明したりすることを学習してきている。

本単元の事前アンケートを行った結果，「宝物を紹介したい。」と回答した児童は，約6割であった。また，「みんなの前で話をするのは得意。」と回答した児童は，約6割であった。「みんなの前で話をするのは苦手。」と回答した児童は，理由として，「はづかしいから。」や「注目されるのが苦手だから。」などと回答していた。

【指導観】

指導にあたっては，友達のことをもっとよく知り，仲良くなるために互いの宝物を紹介し合うという単元のゴールを共有する。単元の導入では，教師の宝物紹介のモデルを見せ，宝物を紹介したいという意欲やイメージをもたせる。また，少人数での練習で助言をさせ合い，話し方を工夫させるようにしていく。その際，話し方の工夫を考えさせるために，デジタル教科書を活用し，良い話し方を共有していく。

みんなの前で話をするのが苦手な児童には，工夫する観点を自分の中で決めさせ，練習させるようにしていきたい。また，話すことが分からない児童には，話す順番をメモに書いておくなどして支援していく。さらに，助言をもとに，繰り返し練習し，自信をもって発表させるようにしていきたい。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
①姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ)	①「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ②「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ)	①これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、進んで話す事柄の順序を考えて自分の宝物を紹介しようとしている。

4 指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準（評価方法）		
		知・技	思・判・表	態度
1	学習の見通しを立てる。			・態① (行動観察, ノート分析)
2 ・ 3 ・ 4	話の組み立てに気をつけて、みんなの前で話すことを考える。	・知① (ノート分析)	○思② (行動観察, ノート分析)	・態① (行動観察, ノート分析)
5	三人一組で話す練習をする。		・思② (行動観察, ノート分析)	
6 ・ 7	声の大きさや話す速さに気をつけて、みんなの前で話す。	○知① (観察)	○思② (観察)	○態① (行動観察, ノート分析)
8	単元全体の学習を振り返る。			○態① (行動観察, ノート分析)

5 使用教材

たからものをしようかいしよう
名前()

① 分かりやすいはやさで話している。
② あい手につたわる声の大きさを話している。

ふりかえり

二回目のれんしゅうでがんばりたいことや
気をつけたことを書きましよう。

② ①

(くん・さん) (くん・さん)

【図1】話し方の視点

たからものをしようかいしよう
名前()

① あい手につたわるように、分かり
やすいはやさで話すことができましたか。
② あい手につたわる声の大きさを
話すことができましたか。

ふりかえり

【図2】単元の振り返り(第8次)

6 本時の目標

相手に伝わるような話し方を考え、工夫することができる。

(思考・判断・表現②)

7 本時の展開

学習過程	主な学習活動と児童の反応(・) 主な発問○	指導(・)支援(○)	◎評価規準 (評価方法)
導入	1 本時の学習の見通しをもつ。 ○先生の発表を見てどうでしたか。 ・声が小さくて分かりにくいです。 ・速すぎて分かりません。 2 本時のめあてを確認する。 相手に伝わるように、工夫して話そう。	・単元導入で計画した単元計画を確認しながら、本時学習することを確認させる。 ・発表の悪い例を提示し、本時は話し方について考えることを意識づける。	
自分の考えをもつ	3 2つの話し方を比較する。 ○テレビで見た話し方と先生の話し方と比べてみて、話し方はどうでしたか。 ・話す速さが良かったです。話が分かりやすかったです。 ・声の大きさが良かったです。話が分かりやすかったです。 4 より良い話し方を見て考える。 ○先生の話を聞いて、違いはありましたか。 ・途中、言い方を強くしたり、ゆっくり話したりしていました。	・タブレットを使い、良い話し方の例を見せ、話し方について考えさせる。 ・話をする視点である「話す速さ」「声の大きさ」は、どうだったか考えさせる。 ・より良い話し方を見せ、より良い話し方についても考えさせる。	ICT タブレットを活用して考え方を共有する。
	4 三人一組で練習し、助言し合う。 ○2つのことに気を付けて話しましょう。 「話す速さ」「声の大きさ」	・助言をする方法を見せ、助言のイメージをもたせる。 ・メモを読み上げるのではなく、相手を見て話すことを意識づける。	

深める	ぼくは、②は○だと思います。理由は、分かりやすいような声で話していたからです。 1 練習をする。(1分30秒) 2 ワークシートに書く(1分) 3 助言する(2分) ○助言を振り返りながら、2回目に頑張ることや気を付けることを書きましょう。 5 助言をもとに、三人組で発表の練習をする。 ○自分のがんばることを聞く人につたえて、もう一度発表の練習をしましょう。 ○練習して変わったところがありましたか。 ・1回目と比べて、分かりやすいような声の大きさを話していました。	・助言は話が終わった後に伝えることを告げておき、集中して聞かせる。 ○メモが書けない子は、助言をする視点を一つにし、その視点を見させるようにする。 ・聞き手は、話す視点をもとに見る。	◎思② (行動観察)
	6 学習のまとめをする 相手に伝えるためには、声の大きさや、話す速さを工夫するとよい。		
振り返り	7 本時の振り返りをする。 ○みんなに話す時にどんなことに気を付けて話したいですか。 ・わたしは、話す速さを工夫して、分かりやすい声の大きさを話したいです。		◎思② (ノート分析)

8 めざす児童の具体的な姿

良い話し方を参考に、声の大きさや話す速さを考えて友達に話すことができる。

【概ね満足する状況】

- ・助言をもとに、話し方を工夫することができる。

【十分満足する状況】

- ・声の大きさや話す速さを考えて話し、大切なところは強く話したり、ゆっくり話したりすることができる。

⑤

あいうえおのうたを
うたう。

① れんしゅうをする。(1分 30 秒)

② ワークシートに書く(1分)

③ じょうげんする(2分)

① 分かりやすいはやくで話している。

② あい手につたわる声の大きさを話している。

① 分かりやすいはやくで話している。

② あい手につたわる声の大きさを話している。

① 分かりやすいはやくで話している。

② あい手につたわる声の大きさを話している。

① 分かりやすいはやくで話している。

② あい手につたわる声の大きさを話している。

10 授業を振り返って

①本時の振り返り

○本時では、活動前にタブレットで動画を見せ、相手に伝わるような話し方を考えさせることで、期待感を高め、積極的に発表の練習をする姿を引き出すことができた。また、具体的なゴールの姿を見せることで、どのような点を改善していけばより良く相手に伝わるか考えさせることができた。

○本時において、目標を達成できた児童は、72%いた。このことから、概ね授業のねらいは達成できたと考える。

●相互評価をさせることが難しかった。評価の根拠まで書かせたことで、時間がかかってしまったことが原因と考える。根拠は書かせずに言葉だけで伝えるべきだった。また、途中で中間評価を入れて、A 評価の児童の発表を共有することで、目標を達成できた児童が増えたのではないかと考える。



【図1】発表の練習をする児童の様子



【図2】大型モニターで動画を見せ、話し方を共有している様子

②単元を振り返って

○本単元を通して、動画を活用することにより、児童の期待感や積極的に発表する姿を引き出すことができた。また、目指すべき具体的な姿をイメージすることができ、表現を工夫しようとする児童の姿が見られた。

○単元末における評価では、「相手に伝わるよう、分かりやすい速さで話すことができた」児童は68%、「相手に伝わる声の大きさを話すことができた」児童は80%であった。振り返りでも、「友だちに伝えるために、話す速さを変えたり、大事なことを強く言ったりすることができた。」という記述が見られた。

●20%の児童については、話すことの苦手意識から、話し方の工夫があまり見られなかった。今後は音読などを通して、気持ちを込めて文章を読む場面などを日常的に設定し、指導の改善を図っていく。



【図3】A 評価児童のノートの記述

	知・技	思・判・表	態
A 評価	60%	20%	36%
B 評価	20%	60%	56%
C 評価	20%	20%	8%

【表1】単元末における児童の評価の割合

